

1. 研究目的

一昨年発生した震災では500万人以上の方が帰宅困難者となり、特に若い女性が徒歩での帰宅に苦労した。そこで、「災害時の帰宅」という特殊な状況に特化した「女性向け災害用帰宅バッグ」を提案する。

2. 調査と分析

防災に対する備えと防災バッグにおける現状について調査した。

◆ ターゲットユーザーへのインタビュー調査

半数以上の方が帰宅困難への対策の必要性を感じていたが、実際に対策している方は殆どいないのが現状である。用意をしていない理由として、オフィス内にバッグを置けるスペースがない、帰宅専用の物が無い為どんな物が必要なか分からない等の意見が多く挙げられた。また、対策をしている人の中には、用意した物をどこに仕舞ったのかわからなくなってしまったという人もいた。

◆ 商品調査

既存の「災害バッグ」は、家での常備及び避難所での使用を目的として作られている。その為、内容物やバッグの大きさ・重さが、オフィスへの常備にも帰宅時の使用にも適していないと感じられた。また、既存商品には季節によって必要性が異なる物も、同じバッグに入っている。しかし、女性にとって帰宅の際に必要な物は夏場と冬場では大きく異なる為、同一のセットでは荷物が多く、負担となってしまう。

以上の調査結果より、スペースが狭くても設置しておける事、バッグの内容を軽量にしつつ暑さや寒さに対応できる事が必要であると言える。

3. コンセプトの立案

「シーズン・フィット」

- ・季節に対応している
- ・限られた空間に設置できる
- ・取出しから避難までをスムーズに行える

4. デザイン展開

限られた空間への設置を考え、デスクスペースとなっている椅子の下に目を付けた。通常、物が置かれている事のない場所である為、空間の有効活用が出来る。更に、床と近い事で懸念される衛生面を解消する為に、バッグをケースに入れる事にし

た。ケースは、様々な形状の椅子に設置できる様に、どの椅子にもある背、両サイド、足の軸の4点で支える形状とした。

季節に対応させる為、バッグ自体をいつでも必要な物が入っている「常備バッグ」と、暑さ・寒さのそれぞれに対応できる「夏バッグ」「冬バッグ」の合計3つに分けた。季節に分ける事で、本当に必要な物だけを持って帰宅できる様にした。「夏バッグ」を「赤」、「冬バッグ」を「青」の持ち手にする事で、瞬時にどちらか判断できる様に配慮した。避難の際には、ケース上部の「赤い持ち手」か「青い持ち手」のどちらかを手前に引く事で、季節にあったセットをワンアクションで取り出せる。同時に、はめ込み式の扉も外れるようにした。取り出した常備バッグは肩に掛け、季節セットをフックでまとめる事で、両手が塞がらないように配慮した。

5. 完成図



6. 結論

実際にターゲットユーザーにあたる女性に体験してもらった所、セット内容に関しては「物自体は少ないが、必要な物が揃っている」と意見をもらった。また、「椅子の下ならば邪魔にならず、近くにあるので取り出しやすい」「一気に引き出せるので緊急時でも取り出しやすい」との意見も頂けた。当初の目的である季節への対応、空間の有効活用、バッグ取り出しのスムーズさに関してはおおむね達成する事が出来た。

大手椅子メーカーのショールームで検証した所、ほとんどの椅子には設置できたが、一部の椅子で設置できなかった。また、椅子を動かさずと揺れてしまうなどの問題点が見受けられた。その為、椅子への設置方法とケースの安定感、という点において改善が必要であると思われる。

文献

- ・[災害時]非常用持ち出し袋-中身と評価-
<http://orangesky.jp/2008/10/jisinbousai1028.html>